

「JTの森鶴岡」森林ボランティア活動

10月1日(土)、鶴岡市の「いこいの村庄内」の南側松林内(民有保安林)で、手鋸による下刈及び除伐、残材の運搬集積等の森林ボランティア活動に参加しました。

1日は今期として早すぎる冬型の天候となり10月上旬としては寒すぎる日となりました。

この「JTの森鶴岡」森林ボランティア活動は平成21年秋から行っており、今秋で4回を数えました。このボランティアは、松くいや老齢化、手入れ不足により荒廃している庄内海岸砂防林を再生するために平成20年3月に策定された「庄内海岸松原再生計画」を推進するひとつの取組みとして、平成21年3月26日に日本たばこ産業株式会社、山形県、鶴岡市、下川生産森林組合の4者で結成した「JTの森鶴岡」森づくり協定に基づき、JT社員及び家族及び地域住民・農業関係者・地元小学校等による多様な主体による協働の森づくりを推進していくものです。

ボランティアの参加者は、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター、庄内森林管理署、山形県、鶴岡市、日本たばこ産業株式会社、下川生産森林組合、出羽庄内森林組合、東田川郡内にある森林組合・林業関係者等の180名の皆さんが参加しました。

参加者の皆さんは、1班から10班に分けられ、決められた作業場所で班長の指示のもと作業を行うことになりました。当センター職員は、8班の班長を仰せつかり、班員をケガさせることなく作業を完了させる重責を任せられました。作業箇所には、タラノキなどのトゲのある木々や背丈より大きい灌木が繁茂しており、手鋸による下刈及び除伐作業には不向きでした。しかし、各班の経験豊かな班長の指導のもと、参加者の皆さんの頑張りで何とか整備することが出来ました。ある参加者から、鋸を用いてここまで綺麗に整備が出来たので嬉しかったと言ってくれました。

また、午後からは、木工教室を「いこいの村庄内」の建物内で行いました。出羽庄内森林組合の担当者が用意した、木の枝、木の実、貝殻、小石などを用いて、フォトスタンド造りチャレンジしました。参加者のあるお父さんは、家族全員を木の枝等を用いてスギの板の上に家族の温かみを表現して、他の参加者から大きな拍手を浴びていました。ある小学生からは、次回のJTの森でもこの班になって、森林整備や木工教室に参加して楽しみたいと話がありました。

最後に、JTの社員で家族で参加者された方は、庄内のクロマツ林がいかに重要であるかを知り、また来年の春に来て作業をしたいとの誓いの言葉も貰い「JTの森鶴岡2011」ボランティアが終了しました。

